

東京金山会通信 No.49



東京金山会のページにアクセス!

問合せ

東京金山会 広報担当 (藤山善夫)
☎080-5525-0435
✉fujijama.d.siren@ae.auone-net.jp

第64回総会の準備状況報告

満開の桜のシーズンも終わり、いよいよ第64回総会の開催まで残り2ヶ月を切りました。

2023年度は、東京金山会と同様に、山形県人東京連合会総会(9月4日開催予定)、最上地域ふるさと連合会及び各ふるさと会の活動も4月初旬より開始しており、東京でのふるさと会活動も本格的な再始動を迎えた形となっております。

東京金山会は、3月25日(土)、4月22日(土) 役員会を開催し、4月下旬に、会員の皆様に総会案内状を発送しています。総会案内状には、返信ハガキを含め「かねやま会だより」、「かねやま情報」、「東京かねやま市」、金山産コメ販売価格表などを同封しています。会員の皆様から1通でも多くの「出席ハガキ」が寄せられることを祈っています。

金山町の関係者のみなさまのご協力をいただきながら、しっかり準備をすすめてまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願いたします。



▲3/25 東京金山会役員会



▲案内状発送作業の様子

No.207

「森の子ども図書コーナー」

交流サロンぽすと内



『ノラネコぐんだん うみのたび』

(工藤ノリコ/作絵 白泉社)

「ニャー、うみのたびおもしろそう」ノラネコたちがいつもより間近で覗いているのは出港直前の豪華クルーズ船ワンワン号。ポー ポオー、ワンワン号が出港しました。ドンブラコー ドンブラコー、あれ?ノラネコぐんだんが船の後ろで波に揺られています。なんと、たらいとロープを使って勝手にくっついてきちゃいました。夜になり乗客が寝静まったころ、ノラネコぐんだんはワンワン号に乗り込みます。プールで遊んだりアイスを食べたりやりたい放題。そこへ「この船はわしらがのっとった!」と、まさかの海賊が…。どうなるワンワン号、どうするノラネコぐんだん!



※()内作者名

デトロイト美術館の奇跡(原田マハ)/木挽町のあだ討ち(永井紗耶子)/ジャクソンひとり(安堂ホセ)/かすうどん男(畑博貴)/二十世紀のおとぎ話 ~三人の王子と二人の王女の物語~(オー・クンケー)/神様仏様とつながるための基本のき(桜井識子)/この部屋から東京タワーは永遠に見えない(麻布競馬場)/名探偵のまままで(小西マサテル)/青木きららのちょっとした冒険(藤野可織)/天路の旅人(沢木耕太郎)/みんなの職活(尹生花)/パパのための育児クイズ115(高橋幸恵)/私を整えるごはん(サニー早苗)/#感動の納豆レシピ(夏見奈央子)/大切にしたい、にっぽんの暮らし(さとうひろみ)/キミとはじまりの森(朝倉未来・永田えほん)/この世の喜びよ(井戸川射子)/荒地の家族(佐藤厚志)/ジジイの台所(沢野ひとし)みとりねこ(有川ひろ)

「図書室だより」

中央公民館内 9:00 ▶ 16:00

「シンと金魚」(永井みみ/集英社)
認知症を患うカケイは、「みっちゃん」たちから介護を受けて暮らしてきた。ある時、病院の帰りに「今までの人生をふり返って、しあわせでしたか?」と、みっちゃんの人から尋ねられ、カケイは来し方を語り始める。暴力と愛情、幸福と絶望、諦念と悔悟……絡まりあう記憶の中から語られる、凄絶な「女の一生」。



「発達障害の人が見ている世界」(岩瀬利郎/アスコム)
発達障害とは、一言で言えば脳機能の特性。状況を読んだり、人の気持ちを推測したりする脳の動きが定型発達の人より弱ることがわかっていきます。理解に苦しむ言動も、本人たちが物事をどう受け止めて、感じているのか、「見ている世界」を理解し、その対応策を学ぶことで、ともに生きるのが楽になるはず。



▶ 今月は20冊!

協力隊の池田です

今月は2点ご報告!!

隊員 池田達哉



こんにちは!有屋の「いわな」を、事業承継する活動をしております協力隊の池田です。今月のコラムは、2点報告させていただきます。

①「神室トラウトファーム」(二代目いわなや)へ屋号変更
新時代にむかって屋号(呼び名)と企業ロゴを変更しました。名称は、「神室」という文字は、神室山の恵みを受けていることから漢字を用い、「トラウト」とは、英語でサケ科の淡水魚の総称なので、「いわなや」には、神室イワナ・金(かね)やまめ、将来的にはニジザクラ(山形県ニジマス、を育てるため、用いました。そして、「ファーム」とは、日本語では養殖場と訳され、最後に、「いわなや」の二代目としての決意を込めたものとなりました。また、ロゴには、溪流魚をモチーフに、お腹には、金山町で育った(栄養を含んでいる)という意味での金山三峰を描き、シンプルにすることで、子どもたちが魚と触れ合った時に、絵を描けるようなそんな想い込めたものです。



神室トラウトファーム



▲イワナの塩焼き

日々の活動は、Instagramで配信中です。ぜひ、フォローのほどよろしくお願いたします。



ふんばい

金山杉俳句会報 第四七四回

鳥海山の裾野も光る春彼岸
涅槃会の絵図に過るや亡父の影

星川 キエ子

蛤に赤いべを着せ雛人形
雪代の力強さや陽の恵み

岸 昭子

陽射し受け菜の花摘む手土手の道
膨らむ芽蠟梅香る囲い中

高橋 洋子

女人講帰路賑やかに日脚伸ぶ
笑ひつつ過ぐる少女ら蓮華草

鶴沼 よし子

白き山茜に染めて春近し
春分の青空の下雀群々

阿部 一代

考の計に踰踏と来て黒揚羽
夜の青柿まががしきは暴走車

栗田 弥超

かねやま紅風会

里山や一番星の白辛夷
心ち良く春風渡る散歩道
命日や忍ぶ夫に花をそえ

荒屋 阿部 喜美子

春耕や田畑賑はふ出羽の里
煎定の勝負を懸ける果樹畑
増水の岸辺を洗う猫柳

荒屋 関 喜美子

水仙の香り漂ふ狭庭かな
雪解けの早瀬を下る有屋川
淋しさや村の日暮に鳥帰る

菅越 庄司 けみ子

春旅やひとのやさしさぬくさ知る
山頂に御座す観音風光る
玉貴にて雑の一句をひねり出す

七日町 青柳 キエ子

被災地に想ひを寄せる春の月
春の宵お久振りと縄暖簾
雖まつり添える生花みすぎ荘

七日町 柴田 栢静

春の夜は写真の妻に一人言
春の如妻の縄張り立ちすくむ
逢えぬ身のコロナ憎しい春病棟

上台 阿部 一步